

「平成29年度に実施した仕事」の振り返りシート

記入日 平成 30 年 3 月 30 日

仕事の内容	金婚祝状贈呈事業			
担当部署・課長名	高齢介護	課	高齢福祉	係 課長名 伊野宮 崇

この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。

【施策】 高齢者保健福祉の推進

(総合計画書 51 ページ)

予算名	款 3 民生費	項 1 社会福祉費	目 3 老人福祉費	事業 5 高齢者慶祝事業
1 この仕事の目的	① 誰(何)を対象にしていますか。			① ①の対象数や量を、あらわすもの(対象指標)
	市の区域内に居住し、住民基本台帳に記録されており、婚姻届出50年を経過した夫婦。			→ 対象者(婚姻届出50年を経過した夫婦)が毎年度どのくらいいるのか把握することは困難である。
	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に]			② ②の状態になった数・量をあらわすもの(成果指標)
	祝状を贈呈し、金婚を祝うことにより、市民の高齢者に対する敬愛の精神と高齢者福祉について理解と関心を高め、高齢者自らの生活意欲の向上と生きがいの増進につなげる。			→ 対象指標が不明なため、成果指標は活動指標と同数になる。
1 この仕事の目的	③ そのために何をしましたか。			③ ③をどのくらい行いましたか(活動指標)
	東大和市において金婚を迎えた夫婦を祝う。全部事項証明書(戸籍謄本)又は外国人の場合は婚姻届受理証明書を添えて申請する。月1回程度、大安や友引の日を選び、支給決定された夫婦に対し、祝状を窓口において支給する。			→ 支給者数。この活動指標を増やすために、申請できる期間を2年度間とし、市報に年複数回掲載し、ホームページでも周知して、該当になる夫婦にはできる限り多く申請してもらうように積極的に事業展開をしている。

		単位	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度目標	平成31年度目標
2 指標の推移	対象指標	①の数値	組	—	—	—	
	成果指標	②の数値	組	122	27	42	
	目 標	②の目標値					
		目標値設定の考え方	実績による見込み				
活動指標	③の数値	組	122	27	42		

3 経費	事業費(実績)		円	395,966	119,814	94,134	※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費(再任用職員以外) 年間単価は、8,253,000円 時間単価は、4,200円 で計算してください。 【算出根拠】平成28年度決算数値。(退職手当組合負担金、共済費も含む。)
	財源	一般財源	円	395,966	119,814	94,134	
		特定財源	円	0	0	0	
		(うち受益者負担)	円	0	0	0	
	人件費(目安)	所要人数(再任用以外)	人	0.2	0.05	0.05	
		所要人数(再任用)	人	0.0	0.0	0.0	
		職員人件費(再任用以外)	円	1,646,600	413,350	412,650	
職員人件費(再任用)	円	0	0	0			
事業費+人件費		円	2,042,566	533,164	506,784		

この仕事における市の裁量 市の裁量は大きい

4 環境変化	この仕事の開始時期(開始年度)、何を目的に開始していますか。	昭和58年4月開始。当時、高齢者人口の増加に伴い、在宅介護サービスの拡充が求められていたことを背景に開始された。
	開始当初と比較し、状況の変化はありますか。	年度により申請数に増減はあるものの、高齢化が進む中で、常に一定のニーズがあると考えられる。

5 市民等の意見	この仕事に関して、平成29年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について	祝状の贈呈がいつ頃になるのかという問い合わせが数件あった。

仕 事 の 内 容	金婚祝状贈呈事業			
担当部署・課長名	高齢介護	課	高齢福祉	係 課長名 伊野宮 崇

6 市民協働	(1)市民協働の取組を行いましたか。ある場合は、取組手法の種類から番号を選択しご記入ください。(複数回答可)		
	取組みは無い	取組手法	【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換(広報媒体：) ⑦後援・場の提供 ⑧その他()
(2)平成30年度に向け、さらに適した協働の形態とするために「考え」「気付いた」点をご記入ください。			
7 課 題	(1)平成28年度の課題についての解決に向けた取組や、事務改善など、平成29年度に実施したことをご記入ください。		
	申請の時に、配布資料と合わせて、必ず口頭で支給できるのは結婚50年目を迎えた日以降になることを伝えた。		
	(2)この仕事を振り返り、課題をご記入ください。 祝状の贈呈日は、結婚50年目を迎えた日以降になることがきちんと伝わっていないことがある。 近年、金婚式を行うことが一般的ではなくなってきている。		
8 今 後 の 方 向 性	(1)仕事の方向性(「7 課題(2)」を踏まえた具体的な改革・改善案など) 引き続き、申請の時に、配布資料と合わせて、必ず口頭で支給できるのは結婚50年目を迎えた日以降になることの説明を徹底したい。 金婚式を行うことが必ずしも一般的でなくなった状況下において、事業に公費を投入する意義について検討する必要がある。		
	(2)上記(1)の改革・改善案を実現するために、克服すべき問題点、必要な調整・準備等を具体的にご記入ください。 説明に使用する配布資料の作成と係内での認識の共有を図る。		
	(3)改革・改善案による期待成果 上記(1)の改革・改善案を実施することで、成果面と経費面で現状からどのように変わりますか。		
	成果	成果を維持する。	経費